タイトル

『汐製菓会社の新作 45 アイス 5』

登場人物

- **汐**（30 代）

汐製菓会社の社長。座右の銘は「面白きことも無き世を面白く」。独創的かつ奇抜な発想で、世の常識を覆すお菓子を作り出してきた。快活で、どこか浮世離れした性格。

- **塩田**（30 代）

汐の秘書。真面目で几帳面、常に冷静だが、汐の突拍子もない発想に日々振り回されている。実は大の甘党で、製菓会社に就職したのもそのため。汐を内心では尊敬しているが、毎回の新作に頭を抱えている。

あらすじ

汐製菓会社の社長・汐は、次なるターゲットとして夏にぴったりのアイスを考案。しかし、その味は『ゴーヤチャンプルー味』という、前代未聞の奇抜な組み合わせ。秘書の塩田は心配するが、汐の熱意に押されて新商品開発が進む。そして、国内外の顧客を集めた試食会が開催されるが、国境を越えて奇妙なアイスがどう受け入れられるかは未知数。試食会場はまさかの大混乱！？人々の反応を引き出し、果たして商品は成功するのか。

第一幕：奇想天外な会議室

（場面：汐製菓の会議室。汐は窓の外を眺めながら、机の上にアイスの試作品をいくつも並べている。）

汐

「次はこれだな、塩田くん！夏だ、沖縄だ、ゴーヤチャンプルーだ！」

塩田

「えっ！？ゴーヤチャンプルー……アイスですか？」

汐

「そうだ！健康志向の時代にピッタリだろう？苦いゴーヤと甘いアイス、このギャップが革命的なんだ！」

塩田

（戸惑い）「でも、アイスは普通、甘くて美味しいものじゃ……。ゴーヤは苦いですし、チャンプルーは炒め物……。」

汐

（自信満々）「それが肝心だ！驚きがある商品ほど、人々の記憶に残る。目新しい物が話題を作るんだ、塩田くん！」

塩田

「（心の中で）確かに驚きはあるでしょうが、どちらかというと悪い意味で……。」

汐

「まずは君が試してみてくれ！」

（汐が試作品を差し出す。塩田は困惑しつつも、それを受け取る。）

塩田

「（渋々一口食べる）……うっ……すごく……ヘルシーな感じがしますね……。」

汐

「だろう！これは革命だ！さっそく一般消費者に試してもらおう！」

第二幕：試食会の大騒動

（場面：都内の大型ショッピングモール。汐製菓のブースには「新商品試食会！ゴーヤチャンプルーアイス」の巨大な看板。ブースは国内外のお客さんで溢れている。）

司会者

「さあ皆さん！汐製菓の新作アイス『ゴーヤチャンプルー味』です！今夏のヒット商品間違いなし！どうぞお試しください！」

（国内外の顧客が列をなしているが、全員不安そうな顔をしている。）

通行人A（日本人）

「ゴーヤチャンプルーって、沖縄料理だよね？アイスになるの？」

外国人A（アメリカ人）

「Goya Ice? What is that?（ゴーヤアイス？何それ？）」

通行人B（日本人）

「何かすごく嫌な予感がする……。」

外国人B（フランス人）

「ゴーヤ？それは……お野菜でしょ？（野菜がアイスに？）」

（塩田がブースの隅から様子を見守っている。）

塩田

「これは絶対にクレームの嵐になるわ……。」

（汐が自信満々にブースに登場。）

汐

「さあ、みんな！食べてみてくれ！これは人生一度は食べるべきアイスだ！」

（外国人観光客が恐る恐るアイスを手に取り、一口食べる。）

外国人C（アメリカ人）

「Hmm… Bitter… And sweet… But… Why?（うーん……苦くて……甘い……けど……なんで？）」

外国人D（フランス人）

「これは驚きですね、全く……想像できなかった味です……。」

通行人C（日本人）

「えっ！？これ、チャンプルーそのまんまじゃん！」

通行人D（日本人）

「苦っ！でも、なんか……不思議とクセになるかも……？」

（会場全体は混乱と驚きで溢れるが、若者たちは奇妙な魅力に気づき、写真を撮ってSNSにアップし始める。）

若者 A

「うわ、これ映える！ゴーヤアイスとか、ヤバすぎて逆に面白い！」

若者 B

「ちょっとハマるかも？！」

（塩田は試食会のフィードバックを見ながら頭を抱えている。）

塩田

「案の定、『苦すぎ』『驚きすぎて笑う』というコメントばっかり……。」

第三幕：予想外の大ヒット

（場面：オフィス。塩田が試食会の報告書を手に、目を丸くしている。）

塩田

「社長……信じられないことに、売り上げが急上昇しています……！」

汐

（涼しい顔で）「当然だよ。驚きが全てさ。人々は冒険を求めているんだ。」

塩田

「でもアンケート結果の大半は『苦い』『なんでアイスにしたのか理解不能』なんですが……。」

汐

（にっこり笑って）「それが狙いさ。普通の美味しさじゃ話題にならない。みんなが驚いて話題にするからこそ、売れるんだよ。」

（電話が鳴り、塩田が受け取る。）

塩田

「はい、汐製菓です……えっ！？ニューヨーク

のバイヤーからオファー！？ゴーヤチャンプルーアイスをアメリカに輸出したいと！？社長、すごいことになりました！」

汐

「ほらね、塩田くん。世界は僕たちのアイスを求めているんだ！」

（汐は笑顔で拳を握りしめる。塩田は呆れつつも、その勢いに引き込まれている。）

第四幕：世界進出とさらなる冒険

（場面：アメリカのスーパーマーケットで「Goya Champuru Ice Cream」が並び、人々が列を作っている。）

アメリカ人消費者A

「This is weird... But kinda cool!（変だけど……面白い！）」

アメリカ人消費者B

「I、ve never tasted anything like this before.（こんな味、初めてだ！）」

（ニュース番組で取り上げられる「ゴーヤチャンプルーアイス」。インタビューに答える汐。）

インタビュアー

「この奇抜なアイスがヒットした理由は何だと思いますか？」

汐

「人々は日常に驚きを求めているんです。それを提供するのが僕たちの仕事なんですよ。」

（塩田は遠くでため息をつきながらも微笑んでいる。）

塩田

「次は何が待ってるんでしょうね……。」

終幕

（最後に、世界中の食卓に並ぶ「ゴーヤチャンプルーアイス」。人々が笑顔で食べる姿が映し出される。）